

## 市の花「大賀蓮」の系統保存に係る花期の技術講習会

平成 25 年 7 月 26 日

日本ハス文化研究会会長 南定雄

### 第 3 回「大賀蓮」の系統保存に係る 7 月の技術講習会

平成 25 年 3 月 14 日に種レンコンを掘起こし、植え付け作業を行いました。大賀蓮の種の保存を特別区域において、隔離栽培を行い、種の保存とともに、大賀蓮の特性と生育状況の観察を行い、栽培管理の要点を把握し、栽培技術の向上を目指すものである。種の保存の鉢栽培は品種の交雑による、実生の発芽を抑えることを目的とします。また、種レンコンの植替えを容易に行うことができ、系統保存を続けていけます。また生育状況や病虫害発見が早期にできる利点があります。

5 月の技術講習会では、4 月の中旬から浮葉が出始め、5 月になると気温の上昇とともに、浮き葉の数も、多くなり、そして立葉が出できた時期の講習を行った（出蕾を期待して）

今回は、花期の時期の講習会として実地します。

この時期は、ハスの生育が最も盛んになって立葉も出てき、そして出蕾します。立葉や、蕾にアブラムシの発生が多くなります。駆除がどうしても必要になります。駆除しないと葉や蕾がアブラムシにおおわれ、成長が阻害され、枯れてしまいます。順調に成長をすると蕾が現れて約 18～20 日前後で開花をします。

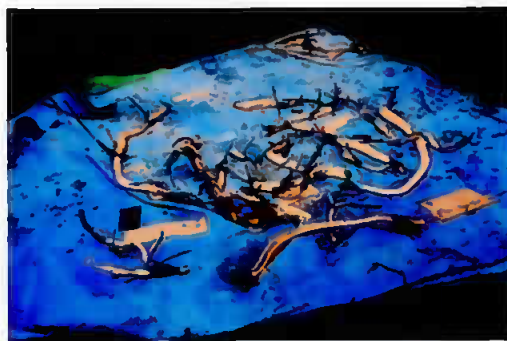
今の時期大賀蓮の開花はほとんど終わっています。大賀蓮は、花ハス品種の中で、もっとも早く成長し、早く開花します。すなわち早咲きの部類になります。生育環境が狭いといえます。

今は立葉の充実とともにと止葉が出てきます。追肥を少し施し、来季のレンコンの充実と共にレンコンの肥大をさせます。レンコンの生長が止まると、立葉が枯れてきます。早く枯れてくのも大賀蓮の特徴です。

7 月の終わりから 8 月になると害虫の発生は、アブラムシと共にハスモンヨトウの発生があります。発生したら、駆除します。

#### 鉢栽培での問題点

今年の 3 月 14 日に大賀蓮系統保存の植え替えを行いました、



種レンコンがやや小ぶりにおもわれましたが、限られた面積（桶栽培、鉢栽培）での栽培では、

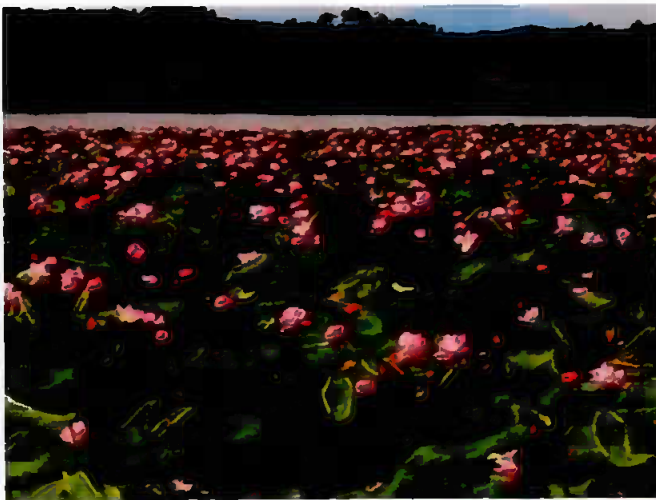
花蓮品種の特性が栽培面積の割合で開花数が極端に少なくなる傾向があります。大賀蓮では、其の傾向が特に顕著に表れています。50～65畝の栽培鉢で開花数は2～3本が普通で、開花しない鉢もあります。また、天候や気温、栽培土、灌水の温度、肥料や栽培場所などいろいろな条件により開花数が、違ってきます。

#### 千葉公園・大賀蓮の開花

千葉公園の大賀ハス開花は5月29日でした。その後天候にも恵まれ、6月の17日には660本余り開花し、最盛期になったようです(千葉公園大賀蓮開花情報)。今年は平年より桜も早く開花しました。大賀ハスも過去3年と比べて約2週間も早く開花したようです。大賀蓮は早咲きの部類に分けられますが、気象や栽培条件で開花や見頃の時期は毎年違ってきます。ここ数年の傾向は開花時期がだんだんと早くなってきているようです。

花ハスの品種には、開花数の多い品種も多数あります。

国内の花ハスの産地で、一般的には大型の種類に属するハスが湖や沼地、池などで栽培されています、見事な花を咲かせているところもあります。(滋賀県草津市の琵琶湖、宮城県栗原市の伊豆沼、など)



宮城県伊豆沼のハス(8月10

日)

中型から小型のハスの品種では小さな栽培鉢で10数本の花を咲かせる品種も多数あります。大賀ハスの系統保存事業でも、大賀ハスだけではなく、他の品種の特徴を知ることが必要で、花ハスの全体像の中で、大賀ハスの特徴を捉えていただきたいと思います。

## 花ハスの形状と生態

### 1. 地下茎

ハスの生育期に地中にある茎を総称して地下茎と言います。地下茎はその形状で区別され生育期、地中を横に走る根茎と、不定芽が肥大してふくれたかたまり上の塊茎（レンコン）とがあります。ハスの成長（繁殖）様式はふたとおりあります。

ひとつは地中の親レンコンが成長して節をつくり側枝と呼ばれる分岐茎を次々にのぼし、地下茎を形成する方法です。もうひとつはハスの実の（種子）発芽による繁殖の方法があります。

### 2. 頂芽

新しい地下茎の先端部の頂芽は鞘状の苞でつつまれている。内部は葉芽や、花芽など各器官の原基組織が4層からなる苞で形成されている。一番外側の第一苞には第2苞、第3苞、そして最内部の第4苞までが包まれている。

### 3. 根群

水面から立ち上がる葉柄・葉身、花茎、を支持する根群は、関節部と分岐茎にも根毛が密生し球状に着生している。

### 4・葉

葉は光合成をはじめ栄養物質の転換や、水の蒸散など栄養生長期に重要な役割をはたしている。

#### (1) 浮葉・立葉・止葉

地下茎の各関節部からは成長とともに葉が立ち上がってくる。頂芽から出る1節目からは浮葉が水面に伸び浮きます。そのあと2節目から立葉芽（本葉）が成長してきます。立葉は、出葉時丸く閉じていて剣の様な形状になります。また剣葉と呼ばれるのはそのためである。成長の下降期になると（レンコン肥大期）葉は低く小さくなり止葉が出て葉の形成はとまります。

#### (2) 葉脈・葉身・葉柄

成長した葉は（葉身）は受け方の円形ないし偏円形で、葉柄と $130^{\circ} \sim 150^{\circ}$ の角度（葉角）になります。葉柄との付着部・中盤（荷鼻）からは放射状に葉脈が全面に現れている。中央上方の主脈、下方の底脈から左右に放射状に伸び、3～4回分岐して葉身の縁部まで達している。その数は十数本から二十数本までみられる。

葉身（完全展開葉）の大きさは、花蓮の品種により異なるがその直径は葉柄の長さの二

分の一ぐらいである。小型種では15～20cm大型種では80cm前後になる。

葉身の感触は指先で触れると滑らかなものとザラザラしたり、裏表にちがいが見られたり品種で平滑度合いにさがあります。これはハスの葉に撥水性の機能があり、水滴をはじき飛ばす機能がそなわっていることになる。なお葉脈には2本の通気孔がとおり、中盤から葉柄内の通気孔、地下茎の通気孔につながり各器官の伸長・拡大とハスの生長に重要な役割をしている。

#### (4) 気孔

ハスは水生植物としての植生上、植物を構成する器官内に通気組織である、通気孔があり、葉柄・葉脈、花茎、レンコンとつながり地下全体に連絡がとれていて植物体の伸張や拡大に役立っている。そして通気孔は葉の表面の気孔につうじています。気孔は、その開閉により体内水分の調節、光合成をおこなうための必要な炭酸ガスを空気中からのとり入れ、酸素の放出、根からの養分の吸い上げなど成長のメカニズムに重要な役割をはたしている。

## 2・花の形状

### 1. 花色による分類

白蓮系統（花卉全体が白の蓮）

紅蓮系統（花卉全体が紅色の蓮）

桃蓮系統（花卉全体が桃色の蓮）

爪紅系統（花卉の先端が紅色の蓮）

斑蓮系（花卉に紅紫色の斑入る蓮）

黄白蓮系（花卉全体が黄色と白か薄いクリーム）

黄紅系統(淡い黄色の花弁の先端から中ほどまで薄い紅色が入る蓮)

### 2. 花 径による分類

大型種（花の直径が26cm以上の蓮）

中型種（花の直径が16～25cm以下の蓮）

小型種（花の直径が15cm以下の蓮）

碗 蓮：花の（花の直径が12cm以下の蓮）とくに小型の容器(鉢直径約25cm以下)で栽培して花が開花する品種を碗蓮としている

### 3. 花卉数による分類

一 重（花卉数が18～25枚以下） 大賀蓮、原始蓮、舞妃蓮、中日友誼蓮、知里

半八重（花卉数が26～49枚以下） 漁山紅半八重

八 重（花卉数が50～999枚以上） 紅万万 白万万 誠パス

千弁蓮（花卉数が1000枚以上） 妙蓮(多頭蓮) 千弁蓮